

すぐに役立つ生産改善(その2) - 5S運動 -

(社)日本技術士会 茨城県技術士会 プロジェクトチーム アールアンドデー
川又 賢治

はじめに

物作りは「整理・整頓」からはじまります。でも本当の意味を理解して実践している工場は少ないのです。ほとんどの工場の「整理・整頓」運動は、積み直したり、直角、平行に、物を並べなおして「はい、出来上がり」であります。

この「整理・整頓」の古い印象を受ける言葉、実は生産改善、労働安全として大事な5S運動です。5Sとは、整理・整頓・清掃・清潔・躰のことをいいます。今回は、この5Sについて考えてみましょう。

1. 5Sとは

(1)整理とは、すぐに使う物と、いらぬ物をはっきり分けて、いらぬ物はおもいきって捨てることです。

(2)整頓とは、整理して残された物を「使い易いように」、「誰にでも分かる」ようにきちんと明示して置くことです。この「誰にでも分かる」、このことが職場では重要で、必要なものがすぐに取り出せるように、両方の手を有効に活用できる位置に、作業の動作の数を減らすように、そして作業動作や姿勢が楽にできるように物を置きます。

(3)清掃とは、常に掃除してきれいにすることです。清掃の行き届いている工場は、品質が良いといわれるほど密接な関係があり、特に清掃しながら機械・設備に異常がないことを日々点検することがポイントです。

(4)清潔とは、整理・整頓・清掃の3Sを維持することです。そして、この清潔は、「汚れた

から清掃しましょう」から、更には「ゴミは出さないように工夫しよう」、「廃棄するものは分別して捨てよう」へと発展させることです。

(5)躰とは、決められたことをいつも正しく守る習慣づけのことです。本当に身についた整理・整頓にするためには、挨拶や服装の基本の躰がしっかり身につけていなければなりません。出来ていないときはその場ですぐ直すことが大切で、そこには会社や現場責任者の姿勢が現れます。

2. 5Sの推進(目で見える整理・整頓)

徹底したムダとりする生産方式は、誰でも分かる目で見える整理を“赤札作戦”、また、目で見える整頓を“看板作戦”と呼び、活動します。

2.1 “赤札作戦”

赤札作戦は、会社の幹部、そして職場の全員が参加して行います。

(1)まず、いるものといらないものに分けま
す。いらぬ物(廃棄するもの)には赤札(図1)を貼ります。

赤紙には 品名、廃棄、保管を明示、保管期限や担当者名を記載します。

(2)そしていらぬものは期限内に捨てることです。この捨てるということが大事です。

(3)さらにここ一ヶ月間、この職場で使わぬ物

あかふだ	
区分	1. スペース(物・物・物など) 2. 広敷(物置、材料・部品など) 3. 棚(ワイヤラック・パレットなど) 4. 棚下(ホルダー・物・物など) 5. 天板(物置・ゴミ箱など) 6. その他(物置・パレットなど)
品名	
数量	
理由	1. 不要 4. 欠損 2. 不足 5. その他 3. 不足
処置部門	署名 印
処置	1. 捨て 2. 修理 3. 保管 4. 清掃 5. その他
期日	処分: 年 月 日 保管: 年 月 日
整理番号	(署名)

(例: 大きさ70×200)

図1. 赤札

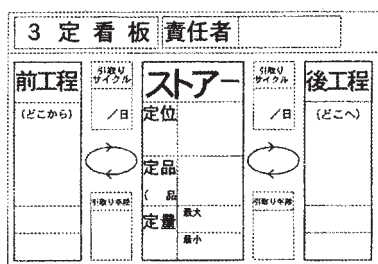
にも赤札を貼ります。そして職場から一旦、離して保管します。期限がきたらまた見直しをします。この整理をする運動をやると「何でこんないらぬ物があるのかな、買ったのかな」、「よそで使えないのか」等が見えてきます。

(4)この整理で職場には不要物がなくなりました。生産に必要なものだけが残りました。また、棚や床にもスペースができました。そこで最も作業効率があがるように、品物が移動しやすいように、設備や物の置き方を変えて物の流し方を徹底的に“改善”します。

2.2 “看板作戦”

(1)改善によって最も効率の良い位置に、置き方が決まったら、“どこに(定位)、何が(定品)、いくつ(定量)”あるか、3定を明示した看板(図2)を作成します。

そしてこの看板どおりに品物を置きます。配膳します。これで探す時間がなくなり最短な行動が取れるようになります。また作業の進行状態が誰にでも分かるようになり“ムダ”が少なくなります。



(例：大きさA4サイズ) 図2. 定看板

- (2)倉庫や資材置場、そして保管棚にも3定看板を設置し、“ムダ”な在庫品が発生しないようにします。
- (3)機械工具も、作業するたびに探しては効率が上がりません。手元に定位置を決めて保管します。

3. 5Sの効果と実践

5Sは、作業改善の道具(ツール)で、全員が参加して行うもので、そのやり方はいろいろありますが、**まず出来ることからやる。100%でなくてもよい、50%でよい。お金をかけないで、すぐにやる、ことが大事です。**

5S運動を実践することによって自然に職場の意識も変わってきます。さらに5S運動を“生産改善”へと発展させてゆくためには、会社として職場としてのしくみ(組織)を作り、決めたことを継続して実行することが大切です。

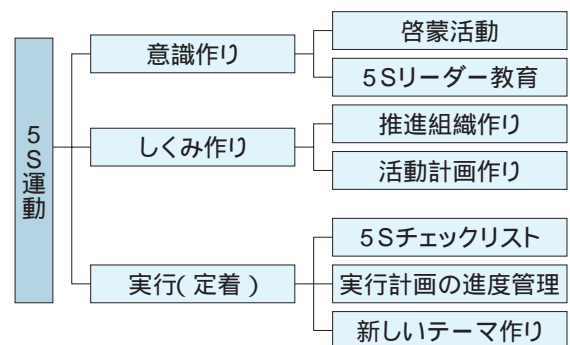


図3. 5S運動(職場活動)

4. おわりに

5Sならびに“生産改善”は職場の協力と意識改革がなくては実行できません。実行するためには日本の物作りの伝統である職場を大事にする“和”の精神が必要です。大事にして行きたいと感じます。

プロフィール

川又技術士事務所

技術士(電気・電子) 川又 賢治氏

参考文献

(1)現場改善 柿内幸夫著

日本能率協会マネジメントセンター

(2)ジャスト・イン・タイム生産の実際

平野裕之 日本経済新聞社